

テキスト特性が英語読解度に及ぼす影響

—日本人高校生に焦点を当てて—

浅井 智雄

(2004年9月30日受理)

The Effects of Text Characteristics on Reading in English
— With a Focus on Japanese Senior High School Students —

Tomoo Asai

This research investigates effects which text characteristics have on reading in English. The text characteristics consisted of three variables, (1) text topic, (2) text type, (3) text difficulty. In this experiment, text topic had two levels: one dealing with non-daily life and another dealing with daily life. Text type also had two levels: expository type and narrative type. Text difficulty had two levels: low and high. Texts used in this research were chosen from among textbooks authorized by the Ministry of Science and Education. Vocabulary and grammar of each text were modified to control the total number of words and difficulty of each text at the same level. The subjects were 62 senior high school students. They were asked to answer twenty questions of each text, which consisted of 10 factual questions and 10 inferential questions. Subjects answered those questions in Japanese. The obtained data was analyzed using 2-way ANOVA, in which the independent variables were text topic, text type, and text difficulty and the dependent variable was reading score. The major finding was that there were actual effects of text difficulty on reading in both the expository text and the narrative text dealing with daily life. As a result, it was mainly argued that the difference in text topic and text structure might be related with this result.

Key words : Score of reading in English, text topic, text type, text difficulty, empirical study

キーワード : 英語読解度, テキストトピック, テキストタイプ, テキスト難易度, 実証的研究

研究の背景

読解研究には2つの側面があると思われる。ひとつは読み手が本来有する読解力に焦点を当てる場合、もうひとつは、読解に影響を及ぼすと推測される要因に焦点を当てる場合、である。前者の例としては本岡(2001)の研究をあげることができる。この研究は外国語を読む力を構成する要因を明らかにした上で、それらの要因の相対的重要性が学習者のレベルにより

どのように変化するかを明らかにしている。その結果、語彙力が最も重要な要素となっていることが示された。しかし、L1リーディング能力・L2の言語能力・メタ認知能力がL2読解力を説明する割合は対象とする被験者や読解の課題となる英文のレベル・内容により変化する可能性があることも指摘している。英文のレベルとは英文の難易度のことを指し、内容とはトピック・タイプなどを指すものと思われる。確かに、テキストの難易度・トピック・タイプなどはL2読解力の構成要因の説明の度合いを変化させると予測される。従って、まずこれらのテキスト特性を操作することがL2読解の度合いに影響を及ぼすのかどうかを確認する必要があると思われる。

次に、読解に影響を及ぼすと推測される外的要因つ

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員 : 中尾佳行 (主任指導教官), 三浦省五,

森 敏昭, 迫田久美子, 深澤清治

まりテキスト特性に焦点を当てたいいくつかの先行研究を概観する。まず、説明的テキストと物語的テキストの読解を比較した研究を概観する。津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ(2002)は、次のように定義した上で、いくつかの先行研究を取り上げている。「物語文と説明文は明確な2項対立をなすものではなく、「物語」はそのテキストが備えている特性の顕著さや数によって段階的に浮かび上がるカテゴリーである。」まず、Freedle and Hale(1979)は5,6歳児を被験者として両テキストの読解度を比較した。その結果、物語的テキストにおける方が理解や再生の能力は高いという結論を得た。また、幼稚園児と小学4年生を被験者とした調査では、やはり物語的テキストにおける方が理解や再生が容易であるという結論を得た。これらの結果の原因としてFreedle and Hale(1979)は、ピアジェが認知的発達の一つの側面として、幼児期や児童期の子供は物語文でないものに対しては再生や理解の点で物語文の場合に比べて劣ることを指摘したことに触れている。更に、Cote and Saul(1998)やTrabasso, Suh, Payton, and Jain(1995)では両テキストの読解過程は同じではないという結論が得られている。これらの研究からは一般的に物語文の方が説明文より読解が容易であることが指摘できる(津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ, 2002)。しかし、これらの研究における被験者の年齢は低く言語発達段階においてより年齢が上である被験者例えば高校生や大学生を対象とした場合、異なった結果が生み出される可能性がある。

さらに、一つ及び複数のテキスト特性と被験者の読解との関連性がいくつかの観点から追求されている研究がある。Hynd and Chase(1991)ではテキストタイプに加えて、テキストを一人称及び3人称で書き換えることが読解度にどのような影響を及ぼすかが追求されている。また、テキスト構造を変数としているものとして、Zhang and Hoosain(2001), Sharp(2002)がある。

前者のテキストタイプを変数とした研究においては異なった結果が得られている。奥村(1998)は説明的テキストにおけるよりも物語的テキストにおいて読解問題の違いによる得点の差を認めている。Hynd and Chase(1991)はテキストタイプの差は読解度の差に影響しないことを確認した。さらに、後者のテキスト構造を変数とした2つの研究はどちらも説明的テキストのパラグラフ構造の変化が読解に及ぼす影響を追求している。その結果、一方の研究ではテキスト構造の違いが読解の度合いに違いを生み出すという結論が得られたのに対し、もう一方の研究ではテキスト

構造の違いと読解の度合いの間には関連性が見つからなかったとしている。

これらの先行研究から次のことを指摘することができる。読解において使用されるテキストには必ずトピックが付随している。上記で概観した先行研究ではテキストタイプやテキスト構造の違いと読解の度合いとの関連性に関する一定の結果は得られた。しかし、得られた結果は一様ではなかった。一般的に説明文の読解においては読み手はその構造把握に困難をきたし正確なメンタルモデルが得難いとされる。一方、物語文の読解においてはその中で描かれているものは読み手の日常生活と密接に関わっているものが多く整合性のあるメンタルモデルが得易いとされる。(津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ, 2002)。その一つの原因としてテキストトピックが関わっている可能性があるのではないだろうか。従って、実験材料として被験者に与えるテキストのトピックを複数用意し実験上の変数として加えることが考えられる。その結果、あるトピックに関しては説明的テキストの方が読解が促進され、別のトピックの場合には物語的テキストの方が読解が促進されるというようなことがわかればトピックの違いによる読解の変化が確認されることが期待される。

研究の方法

1. 目的

トピック・タイプ・難易度を変化させることによって作成されたテキストを読解させることによって、次の2点を追求する。

- (1) 被験者の読解の度合いがどのように変化するかまた、これら3つの変数が読解の度合いにどのように影響するか。
- (2) 上記の影響力の存在が判明した場合、その原因は何か。

2. 予備調査

本実験の実施前、高校3年生を対象としてテキストタイプとテキスト難易度の違いが英語読解度に及ぼす影響について予備的調査を行った。テキストタイプは説明的なものや物語的のものが用意された。また、難易度は各テキストにつき高い場合と低い場合が用意された。従って被験者は4種類のテキストを読んだ。データ分析の結果、テキスト難易度が高い場合、テキストタイプの違いは読解度に影響を及ぼさず、テキスト難易度が低い場合、テキストタイプの違いは読解度に影響を及ぼすことが判明した。しかし、各テキストのトピックは異なっておりこのトピックの差が被験者

の読解度に影響した可能性があり、得られた結果の信頼性に疑問を残した。また、各テキストと読解度の有意差が個別に分析されたに留まり、複数用意されたテキスト相互の読解度との関係を確認することができなかった。従って、難易度やトピックをより厳密に統制することとデータ分析の手法をより正確にすることが課題として残された。

3. 被験者

普通科高校3年生62名を対象とした。英語という教科に対する興味関心という点においては必ずしも高いとは言えない。また、被験者の所属校の英語学力は県全体の平均レベルよりも低い。当初は62名を被験者とし調査を実施した。しかし、学校現場における通常の授業時間帯に実施したため欠席者がいた。また、8つのテキストについての20点満点の各読解度測定問題において無得点であった回数が多い被験者もいた。従って、有効データは38名分となった。

4. 実験材料

実験に際し、他の要因が介在する確率を可能な限り減じるために被験者に提示するテキストの難易度と総語数については数的条件を統一した。また、修正されたテキストは外国人講師によるネイティブチェックを受けた。本実験における独立変数はテキストトピック・タイプ・難易度の3つであり、従属変数は読解度であった。以下、実験に際して使用されたテキストの出典及び独立変数と従属変数について述べる。

(1) 実験に使用したテキストの出典

非日常的話題を扱ったテキストのうち説明的テキストはこの研究のために独自に作成された。物語的テキストは平成12年度に第一学習社から発行された文部科学省検定教科書*CREATIVE Reading Course*から抜粋した。一方、日常生活関連の話題を扱ったテキストのうち、説明的テキストについては、平成12年に文英堂から発行された文部科学省検定教科書*UNICORN ENGLISH COURSE II*から抜粋した。物語的テキストについては、平成12年に発行された文部科学省検定教科書*The CROWN English Series I*から抜粋した。

(2) テキストトピック

マッカーシー(1991)は、「テキストの話題(トピック)の概念についてはいくつかの問題点が指摘されている。しかし、語学教育の教材では、話題とは発話事象の「内容」を表すタイトルであるとする見方が主流である」と述べている。本研究においてはこの見方を踏襲し次の2つのトピックを扱った。また、本実験はトピックの違いを独立変数とするため扱うトピックは被験者の背景知識に差があると見込まれるものにする必要があった。従って、一つは非日常的話題に関する

もの、もう一つは日常生活に関連する話題を扱った。前者の例としてSherlock Holmesを、後者の例としてTeaをそれぞれ実験に使用するテキストテーマとして採用した。

(3) テキストタイプ

テキストの談話のタイプ・ジャンル・表層構造とも言われ、談話の主たるカテゴリーのことである。比較対象あるいは分類といった談話の内的構造を意味するものではない(Hynd and Chase, 1991)。本実験では説明的テキストと物語的テキストの2つを設定した。そして、前者をある話題について解説したものと、後者を標準的時系列に沿ったストーリー展開がみられるものと、それぞれ定義する。

(4) テキスト難易度

1文中の単語数の平均値と単語のシラブル数の平均値から学年レベルを算出するFlesch-Kincaid Grade Levelを採用した。この評価方法は米国などで読書教材などに「〇年生レベル」と明記し、その教材のレベルを客観的に示すという判定のために使用される基準である。実際の算出に当たっては文法チェッカーソフトである“Grammarian II”を利用した。難易度は高いものと低いものの2水準であった。語彙及び文法的側面において実験に使用するテキストの難易度を意図的に操作した。テキストの内容における書き換えは施さなかった。

なお、テキスト作成に当たってはトピックの違いが被験者の読解に介在することを避けるためトピックは説明的及び物語的テキストの両方に共通するものとした。

(5) 読解問題

英語読解度を測定する方法は多数ある。例えば、Close test, True or False, 英語によるQuestion and Answer, 等である。また、多肢選択方式や記述式により測定する場合もある。本研究の被験者は公立高校普通科に在学する3年生であるが英語の熟達度はあまり高くないため英語を使用して解答する問題は作成せず質問文は日本語によるものとした。また、解答に際しても日本語で解答する記述式のものとした。日本語を使用した多肢選択方式にした場合難易度が過度に低下すると考えられたからである。本研究において読解力とはテキストに記述されている事柄を理解する事実認識的読みとテキスト内容から読み手がある程度推測力を働かせて読み取る推測的読みから成り立つものとする。各テキストの読解問題は事実認識的問い10問と推論的問い10問の合計20問が用意された。解答時間は各テキストとも25分であった。

5. 実験手順

8種類のテキストを難易度が高いものと低いものそれぞれ4つずつに分けた。被験者には最初に難易度が高いテキストを読ませた。その後内容の想起度を低減させるため、約1～2週間の間隔を置いた後、難易度が低い同じ内容のテキストを再度読ませた。ただし、通常の授業での調査であったためすべてのテキストについて1回目の読みから2回目の読みまでの期間を一定にすることはできなかった。従って調査期間は6月

中旬から1ヶ月間となった。なお、単語を書写する早さを測定する等の機械的単純操作を内容とする実験においてはカウンターバランスを実施する必要がある。しかし、本研究は、読解という知的作業を対象にしたものであり読解問題に解答する際は機械的に解答するというわけにはいかない。従って、カウンターバランスは施さなかった。また、被験者には事前に各テキストトピックに関わる知識の導入はなされなかった。さらに、読解の際には辞書の使用は認められなかった。

表1. 各テキストの詳細

テキストトピック	非日常的話題 (Sherlock Holmes)				日常的話題 (Tea)			
	Expository		Narrative		Expository		Narrative	
テキストタイプ								
テキスト難易度 (Flesch Kincaid Grade Level)	5th High	3th Low	5th High	3th Low	5th High	3th Low	5th High	3th Low
総語数	444	445	451	444	452	449	457	463

6. データ収集と分析

以下に述べる手順で行われた。

- (1) 各テキストの読解度測定問題の解答は問題用紙と共に授業終了後回収された。
- (2) 測定された各テキストの20問用意された読解問題の得点を被験者一人ずつ採点した。1問につき正答を「1」、誤答を「0」とし合計得点は20点満点とし

た。

- (3) 各トピックについて説明的テキストと物語的文章における難易度の差の読解度に対する影響を個別に確認するため、一元配置分散分析を4回実行するとともに各テキストにおける読解度測定問題の得点の平均値と標準偏差も算出した。

表2. 8種類のテキストに基づいた読解度測定問題の得点の記述統計

テキスト区分	テキストトピック	テキストタイプ	難易度	平均値	標準偏差
A	日常的話題	説明的	高	6.26	3.49
B	日常的話題	説明的	低	7.63	4.61
C	日常的話題	物語的文章	高	3.68	3.79
D	日常的話題	物語的文章	低	6.84	4.60
E	非日常的話題	説明的	高	6.07	3.09
F	非日常的話題	説明的	低	6.28	4.13
G	非日常的話題	物語的文章	高	5.36	3.53
H	非日常的話題	物語的文章	低	5.52	4.16

n = 38

表3. 日常的話題を扱った説明的テキストにおける難易度と読解度の分散分析結果

テキスト区分	SS	df	MS	F	p
AB	35.57	1	35.57	7.25	0.01 **
n = 38	+ p < .10, * p < .05, ** p < .01, *** p < .005, **** p < .001				

表4. 日常的話題を扱った物語的文章のテキストにおける難易度と読解度の分散分析結果

テキスト区分	SS	df	MS	F	p
CD	189.47	1	189.47	24.72	0.00 ****
n = 38	+ p < .10, * p < .05, ** p < .01, *** p < .005, **** p < .001				

表5. 非日常的话题を扱った説明的テキストにおける難易度と読解度の分散分析結果

テキスト区分	S S	df	M S	F	p
E F	0.84	1	0.84	0.15	0.69
n = 38 + p <.10, * p <.05, ** p <.01, *** p <.005, **** p <.001					

表6. 非日常的话题を扱った物語的テキストにおける難易度と読解度の分散分析結果

テキスト区分	S S	df	M S	F	p
G H	0.47	1	0.47	0.07	0.78
n = 38 + p <.10, * p <.05, ** p <.01, *** p <.005, **** p <.001					

分析結果

表2. は実験に使用した8種類のテキストの読解度測定問題の平均点と標準偏差を示したものである。また、表3. から表6. は各テキストトピック及びテキストタイプ別に難易度の違いが読解度にどのような影響を及ぼすかを調べた分散分析表である。

表3. ~ 表6. から、特定のテキストトピックにおいてはテキスト難易度の違いが読解度に影響を及ぼしたことがわかる。本実験においてはテキストタイプとして説明的なものや物語的ものの2種類を用意した。トピックがTeaという日常的话题を扱ったテキストの場合、説明的テキストと物語的テキストの両方において難易度の違いが読解度に影響を及ぼしたことがわかる。しかし、テキストトピックが非日常的话题の場合、テキストタイプがいずれの場合にも難易度の違いは読解度に影響を及ぼさなかった。

考 察

第1点目として、日常的话题を扱ったテキストにおいて難易度が低い場合、読解度は高くなる傾向があるという点について述べる。この結果は、当然のことである。本実験における各テキストの難易度の指標は単語のみに視点を置くFlesch-Kincaid Grade Levelであった。1文中の単語の数が増加するということはそれに応じて英文の構造も複雑になるということであり、このことが読解に影響することは十分考えられる。また、単語のシラブル数が増加するということは語彙難度が上昇するということであり、このこともまた読解に影響することは十分考えられる。しかし、読解において難易度という場合、語彙のみならず文法も大きな要因である。本実験においては、語彙の難度調整を主に難易度の指標とし文法における難度の調整も合わせて行った。上述したように語彙の難易度が読解に影響した

ことは推測できるが文法面での難易調整がどの程度読解に影響したのかは明確ではない。

第2点目として、日常的话题を扱ったテキストの場合、両方のテキストタイプにおいて難易度の違いが読解度に影響した点について述べる。この原因として考えられることは、テキストトピックが有する性質である。Teaという日常生活に関連するトピックとSherlock Holmesという日常生活には関連のない非日常的话题を扱ったトピックを比較した場合、被験者である高校生にとってはTeaの場合の方が一般常識の範囲内で読解に対処することができたと言える。そのため、ある種の読みやすさを感じたのではないだろうか。ただし、この場合、いずれのテキストにおいても読解度が高いわけではなく、物語的テキストにおける読解度は非日常的话题におけるいずれのタイプのテキストの読解度よりも低い値を示している。このことは物語的テキストの場合、テキストトピックが日常的话题であっても難易度が高ければ読解度が低くなる場合があることを示している。このことから、物語的テキストの読解にはテキストトピックの影響力が強い場合とテキスト難易度の影響力が強い場合の2通りあることが推測できる。

第3点目に、非日常的话题を扱ったテキストの場合、いずれのタイプのテキストにおいても難易度の差は読解度に影響を及ぼさなかった。この原因としては、前提知識の不足がテキスト理解に影響したと考えられる。それとともに、Freedle and Hale (1979) とも言及されているように、被験者のような高校生の時期は認知発達過程において論理的思考力が発達する時期である。従って、前提知識の不足とともにSherlock Holmesという話題への関心度が読解度に影響したと推測される。

これまで主としてテキストトピックに焦点を当てて述べてきた。さらにトピック以外の要因も本研究結果と関わりがあるように思われる。それはテキスト構造

の違いである。読解においては読み手はテキスト内容についての予測を何回か繰り返しつつ読み進むと言われている (Grellet, 1991)。この予測という活動は語彙力やL2言語能力などの読み手の側の要因に加えて各テキストがどのような構造を備えているかということにも影響されることが推測される。本実験の結果からは読み手の予測活動の詳細を明らかにすることはできない。しかし、特定のトピックを扱った説明的テキストと物語的テキストの両方において難易度の違いが読解度に影響したという事実から、トピックに関する前提知識あるいは関心度以外に各テキストが持つ何らかの構造的要因も関わっていることが推測される。

教育的示唆

本実験では、トピックによって英語読解度が難易度の影響を受ける場合と受けない場合があることが明らかとなった。もちろん、本研究で扱ったテキストトピックは現在の教育現場で使用されている教科書の中に見られるトピックをすべて網羅しているわけではない。しかし、トピック別に英語読解度がどのように変化するかを追求したりトピック毎の興味関心度を調査し読解度との相関関係を検討するなどの研究を継続していくことによりいくつかのトピックについては具体的読解指導方法を探ることができるようになるかもしれない。

今後の課題

本実験においては、特定のテキストトピックにおいてテキストタイプ及びテキスト難易度の違いが英語読解度に影響を及ぼすことが明らかになった。テキスト難易度は語彙と文法両面から考慮されたが今回の実験においては主として語彙の数やシラブル数が難易度の程度の決め手であった。今後はテキスト内における全ての語彙についてどのような語彙がどのくらいの頻度で出現しているかを数的に表すことが望まれる。また、文法面においては文法項目の複雑度を限定することは困難ではあるが、何らかの指標を設け一つの英文の構文上の複雑さをもって文法的難易度を設定することが必要であろう。これらによってより詳細に難易度を規定することができればどの程度の難易度であればどのような影響や交互作用があるのかを確認することができると思われる。

また、本実験ではテキストトピック・タイプはそれぞれ2水準であった。一つのテキストトピック内及びテキストタイプ内での読解度への影響が確認されたに

とどまった。その原因は、読解度測定問題がテキストタイプの間で異なっていたことであった。もし、読解度測定問題を同一のものにすることができれば複数の要因の間で各要因が英語読解度に及ぼす影響をより明確な形で明らかにすることができると思われる。

さらに、本実験では、説明的テキストと物語的テキストが扱われた。しかし、説明的及び物語的という枠組みは研究者により諸説があり漠然としている。テキストを構造面での違いから見れば、例えば説明的であると言う場合、トピックセンテンスから成り立ついくつかのパラグラフが集合してテキスト全体を成り立たせていると見ることができる。一方、物語的であると言う場合、基本的には、時系列的にストーリーが展開し最後に結末を迎えるという認識がある。

今後は、テキストの構造を成り立たせるいくつかの要因と読解度との関連性を追求する方向で研究を進めていくことにより、説明的か物語的かというマクロな角度ではなくミクロな角度から被経験者の読解を捉えることができる。さらに、読解指導においてテキスト構造のどの要因に重点を置いた指導をするべきか、あるいはその指導をどのように展開すればよいかに関するヒントを得ることができるように思われる。

【参考文献一覧】

- Cote, N., Goldman, S.R., & Saul, E.U. (1998). Students making sense of informational text: Relations between processing and representation. *Discourse Processes*, **25**, 1-53.
- Freedle, R. & Hale, G. (1979). Acquisition of new comprehension schemata for expository prose by transfer of a narrative schema. In R.O. Freedle (Ed), *New directions in discourse processing* (pp.121-135). Norwood, NJ: Ablex.
- Grellet, F (1991). *Developing Reading Skills* Cambridge University Press.
- Hynd, C.R., & Chase, N.D. (1991) The Relation Between Text Type, Tone, And Written Response. *Journal of Reading Behavior*, **23**, 3, 281-306.
- Sharp, A. (2002). Chinese L1 Schoolchildren Reading in English: The Effects of Rhetorical Patterns. *Reading in a Foreign Language*, **14**, 2.
- Trabasso, T., Suh, S., Payton, P., & Jain, R. (1995). Explanatory inferences and other strategies during comprehension and their effect on recall. In R. F. Lorch & E. J. O'Brien (Eds.), *Sources of coherence in reading* (pp.219-240). Hillsdale, NJ: Earlbaum.

Zhang, H., & Hoosain, R. (2001). The Influence of narrative text characteristics on thematic inference during rading. *Journal of Research in Reading*, 24, 2, 173-186

奥村 信彦 (1998). 「The Variances in L2 Reading Ability in Accordance with Text Type: Expository and Narrative Materials」『コミュニケーションと言語教育』, vol.1, pp.16-25.

津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ (2002). 『英文読解のプロセスと指導』, 大修館書店.

本岡 直子 (2001). 「外国語を読む力を構成する要因」, 広島大学大学院教育学研究科博士論文.
マッカーシー, M. (1991) 安藤貞雄・加藤克美訳 『語学教師のための談話分析』, 大修館書店.
(主任指導教官 中尾佳行)

〈附録〉

本研究において使用した各テキスト (最初の部分のみ抜粋したもの)

テキストトピックが非日常的话题 (Sherlock Holmes) の場合

Sherlock Holmes 説明的テキスト・高難易度

Horror novels seem to be different from detective novels. Horror novels make us unpleasant. Because fear remains unsolved. By contrast, in detective novels, strange cases filed with great fear can be logically solved by a skillful detective. So, he is actually a very encouraging figure. We can refer to Sherlock Holmes as one such skillful detective. He is the most famous detective in the world. All over the world, the name of Holmes has been known to many people as a great detective. He is a so called “hero.” He has his own well known features; glasses, pipe, hat, and dark overcoat. These trademarks remind us of his special position in many detective novels.

Sherlock Holmes 説明的テキスト・低難易度

Horror novels and detective novels are not the same. We don't feel satisfied afetr we read horror novels. This is because mystery remains unsolved. On the other hand, in detective stories a wise detective solves many strange and thrilling cases in a logical way. So, he gives us hope. We can tell of Sherlock Holmes as one such wise detective. He is the most famous detective in the world. The name of Holmes

has been known to many people all over the world. He can be called a “hero.” He has his own trademark. They are glasses, pipe, hat, and dark overcoat. These may give him a special position among many detectives.

A Lady Who Defeated Sherlock Holmes

物語的テキスト・高難易度

Whenever Sherlock Holmes spoke of Irene Adler, it was in terms of great respect. She was always the woman. This did not mean that he was in any way sentimental about her, but throughout his long career Irene Adler had been one of the few persons who had proven to be just intelligent as Sherlock Holmes himself.

A Lady Who Defeated Sherlock Holmes

物語的テキスト・低難易度

Sherlock Holmes always spoke of Irene Adler with great respect. She was always the woman. This did not mean that he was in any way sentimental about her. It meant that through his long career Irene Adler had been one of the few persons who had proven to be just as clever as Sherlock Holmes himself.

テキストトピックが日常的な話題 (Tea) の場合

Tea 説明的テキスト・高難易度

The British like their ‘cuppa’ very much, which is an alternative way of saying ‘a nice cup of tea.’ Except for a few people who like their tea neat and prefer China tea, the British generally appreciate their tea from Sri lanka or India with a small quantity of milk. The cold milk must be prepared beforehand. We never make it a rule to drink tea with hot milk or with cream! It is a matter of disagreement among the British whether you should put the milk into the cup before the tea or afterwards. Some might ask you, “Are you M. I. F. ?” In this situation, you should correctly respond. It simply implies “do you prefer to have your milk put in the cup first ?” Some people also add sugar, one or two lumps. The addition of sugar is not surprising when you remember that the British like their tea very strong and black. It is therefore quite bitter without sugar.

Tea 説明的テキスト・低難易度

The British like their 'cuppa' very much. It is another way of saying 'a nice cup of tea.' A few British like their tea neat and like China tea. But they usually have their tea from Sri Lanka or India with a little milk. The milk must be cold. We never drink tea with hot milk or with cream! We don't see agreement among the British in that you put the milk into the cup before the tea or after te tea. If someone asks you, "Are you M. I. F.?" don't look serious. It only means "do you want to have your milk put in the cup first?" Some people also put sugar, one or two lumps. To put sugar is not surprising. This is because the British usually like their tea to be very strong and black. So it is quite bitter if sugar is not put.

HALF A CUP OF TEA 物語的テキスト・高難易度

There was once an Englishman who regularly complained that whenever he asked for "just half a cup," he was always served a full one. He complained

that no English woman could serve an Englishman with only half a cup of tea. With politeness, the English woman would always fill his cup without any hesitation.

The thought was persistently fixed in his mind. He declared he would never marry until he could encounter a woman who would pour out only half a cup of tea when he requested it.

HALF A CUP OF TEA 物語的テキスト・低難易度

There was once an Englishman who always complained that whenever he asked for "just half a cup," he was always given a full one. He said that no English woman could serve an Englishman with only half a cup of tea. To be polite, she would always fill his cup.

The idea was fixed in his head. He declared he would never marry until he could find a woman who would pour only half a cup of tea when he requested it.